

AAS NEWS (Vol. 60)

発行日 令和 7年 8月 13日 (年2回発行)

AASNEWS は 1995 年の初版以来、年二回の発行で「還暦」を迎えました。ネパール訪問はコロナ禍の 4 年間を除き毎年の 27 回目となります。

タイ航空の行程がカトマンズ着は夜中 12 時頃となるため、はじめて変則航空旅券としました。

今回は一人旅でもあり、出国はシンガポール航空で早めの KTM21 時着、帰りはいつものタイ航空 KTM13 時半発の翌朝 8 時名古屋帰国にしました。2 社のコラボレーションは初めてでした。

【ガラ紡プロジェクトの総括】

その1) 1997 年の夏頃、豊橋市内のガラ紡業者が会社を訪ねてきました。ネパールの人からガラ紡技術に興味があり、コンタクトしたいと連絡が入ったので、ネパールに関する NPO 活動をしている中沢さんに相談に来た、とのことでした。愛知県でも戦前戦後に紡糸機械として活躍したガラ紡については、全く知らず、北海道生まれで土木畑の自分には専門外の話でした。

協力隊での任地のソールクンブ地方ではスイス援助のじゅうたん工場があり、定宿にしていたシェルパホテルにもじゅうたん織機が数台置かれ、女性が朝から晩まで動かしていました。チベット難民の支援事業から派生した村の 1 つの産業だったのですが、水道隊員の自分は織物にそれほど興味は無く、T シャツ数枚あればよしという毎日でした。

しかし、そこはネパールに役立つ可能性がある技術移転の手伝いが出来るのであれば、と当時からサービス精神だけは旺盛でしたので、ガラ紡機を贈る会の事務局を引き受けました。

1998 年 7 月号の協力隊会報「クロスロード」の投稿で、水車を動力としたガラ紡機を活用することでくず綿のリサイクルによる布を伝統的な部族の衣装に使うなど、女性の収入にも役立つ可能性があるのではないかとアピールしたりするなど、豊橋市内の三河地織研究会の協力で活動を始めました。

その2) 「ガラ紡プロジェクト：ガラ紡機をネパールに贈る会」としての 5 年間の活動はしかし、最小限の成果に留まりました。ハンディタイプガラ紡機の現地生産に成功し、4 台のミニガラ紡機（6 錘）の 2 台を地方に展開しました。1 台は西部木綿産地のトゥルシプールに、もう一台は東部ルムジャタールの羊毛が集積する織物の村に運びました。



チャンドラ氏の宝飾店でガラ紡の昔話

ネパールの協力組織としての「NEHIDA」は機械の現地生産は協力してもらいました。しかし 1999 年 12 月に佐々木慎一会長が 74 歳で急逝された後、日本側からの支援は限定的になり、終了することになりました。ミニガラ紡機の愛知万博展示用の輸送と左写真のチャンドラ・デブ・サキヤ氏の日本研修の実績により、「贈る会としてネパールにガラ紡を贈ることは完了したので、これでお終い」という海外支援の仕舞い方でした。自分は本業をいつまでもおろそかに出来ず、この時点で会の事務局を退きました。

その3) ガラ紡プロジェクトに関係した者として、どこかで活動を総括する必要を感じていましたが、昨年暮れに JICA 中部から過去のガラ紡機を贈る会の活動について話を聞きたいというオファーがあり、結果的に簡単なガラ紡移転可能性調査の協力をすることになりました。AAS の訪ネの空き時間で、当時の関係者の聞き取りや地方に設置したミニガラ紡機について調べることになり、東部カルドゥンガ郡のムジャタール村に 10 年ぶりに行くことに決めました。



明治村にある初代ガラ紡機



悪路を走破したヨザック君

一方の綿花産地であるダン郡トゥルシプールのガラ紡機についてはマオイストの放火により家屋とともに焼失しています。

ルムジャタール村はAAS 奨学生ソニー・グレンの生まれ故郷であり、小型プロペラ機用の空港はあるものの定期便はなく、仕方なく陸路 5 時間の悪路を耐える長旅行です。AAS 現地組織のバタスファウンデーションがチャーターしてくれた車両で、サンタラーズ・バタス氏とコマルファウンデーションのヨザック・チュラガン君が交互に運転同行してくれました。

その4) 2024 年の 9 月豪雨によりカトマンズから東部を流れるスンコシ川が氾濫し、大規模な被災をしました。当時、カトマンズ市内から東部に向かう幹線のうち、スンコシ川沿いの道路は寸断され、一年近くたったその時もまだ復旧工事中でした。河川敷の道路沿いの家々は敷地の庭を削られ、えぐられ、河川敷に建設された仮設の迂回道路からその無残な姿をさらしています。その中で住民が不自由な生活を続けているようです。2016 年 NEWSVol. 43 で紹介した日本が建設したシンドウリ道路はこのスンコシ川沿いのルートを避け、右岸をかなり高巻きに迂回する賢明



土砂に埋まったリゾート村

な計画でした。この豪雨の中でも、幹線道路として機能し無事だったようですが、しかし前後の道路が寸断されるとともに、カトマンズ寄りのスンコシ右岸高水敷に整備されたリゾート村は氾濫により村の道路が泥で覆い尽くされました。何でまた、こんな危険なところにリゾートホテルを建てたのだろうか…。

その5) ルムジャタール村のガラ紡機はとりあえず無事でした。糸を巻き取る駒は全 6 個のうち 1 個が紛失し、ポリエチレン製の歯車をつなぐブーリーは村のネズミに気に入れられたようで跡形もありませんでしたが、20 年以上の保存にしては修復可能な状態でした。同時提供していた（株）東京手織機製造のカーディング機は酷使されたようで、針山がすり減っていて使用不能でした。羊毛のガラ紡は前工程となる毛揃えが難しかったとのこと、また、部品が壊れた段階で村に修理できる者が見つからなかった、との関係者の話でした。これらの機械は早速カトマンズに宅急便を手配しました。人の体重とほぼ同じ 60kg だったので運賃 2,000Rs(2,100 円)を渡してワンボックスで翌々日に届きました。現在、カトマンズ郊外の Jorpati にある「Gayatri」工場において修理中です。



カトマンズに移動したミニガラ紡機とカード機をチェックするサンタラーズ・バタス氏 (Mahaguthi フェアトレード施設にて)

その6) カトマンズ市内の国際フェアトレード組織を訪問しました。インドのマハトマ・

ガンジーの弟子だったネパール人ナラヤン・シュレスト氏が帰国後に創立した「Mahaguchi」を承継した代表の Sunil Chitrakar 氏と面談、糸つむぎのチャルカは使っていない、綿花を使っての布作りは行っているとのこと。日本のフェアトレード組織と深くつながっている印象を受けました。柔軟な対応の中に 70 人の女性を中心とした組織の運営者としての信念を感じます。



シュレスト氏とガンジー



集積された布地は木綿が中心、同行の Kabinra 氏と Sunil Chitrakar 氏

【現・新奨学生面接】

【バタスファンド運営分:ルムジャタール】

10 年の歳月はルムジャタール村にホットシャワー、トイレ付きの部屋と快適な庭のホテルを作った。村の中心部に近いこのホテルで新旧奨学生の面接を行った。木下中国 OG が集めてくれた古着を村人に持つて行ってもらった。



新ソニア・タバ・マガール 6 年英語好き



新サラダ・ダルジー 8 年



卒業生プロジャ・ライと家族、クリシュナ・グルン氏、モニ校長、サンタさん

【レレ村】

カトマンズ近郊のレレ村は昨年に続く訪問となる。村へのアクセスは旧市街地の狭小な道路以外は広い路肩付二車線道路が建設中でこちらの 1 年間の環境変化は驚き。

新規奨学生にスポーツが好きな好青年(?)タマン君が紹介された。昨年けがをしていたブッダさんは元気に勉学に勉学に励んでいる様子。



新プロジャン・タマン 7 年



ハビタ・ブッダ 8 年

【ソニーグルンのメール】

米国在住の元 AAS, +2, 僨地医療医学生支援を受けたソニー・グルンさんからのメール(抜粋 AI)です。
Dear Sir Nameste!

…ネパールを離れた当初の私の計画は、ネパールでの経済的困難を乗り越えるのに十分な収入を得て帰国することでした。しかし、物事は計画通りには進みませんでした。新型コロナウイルス(COVID-19)のパンデミックにより、期待どおりの収入が得られなくなりました。神の恵みにより、私は幸運にも米国で内科の研修を受ける機会を得ることができ、医学の知識とスキルをさらに高めることができました。

…息子が直面するさらなる困難と特別なケアの必要性が重くのしかかる中で、夫の揺るぎないサポートにより、私が教育を続ける間、夫は家にいて世話をすることを選択しました。現在、私は最終学年で、間もなく内科の医学博士号を取得して卒業する予定です。私が今日あるのは、主に皆さんのお陰で得た素晴らしいサポートのおかげであり、それは決して忘れることはできません。

…私の最終的な目標は変わりません - できるだけ早く祖国に戻りたい、そしてその瞬間を心待ちにしています。…ネパールの人々と生徒たちを支援するあなたの愛と配慮、そしてたゆまぬ努力に深く感謝します。あなたの優しさと寛大さは本当にかけがえのないものです。

…ご理解のほどよろしくお願い申し上げますとともに、ネパールから手紙を書ける日を楽しみにしています。息子の写真を添付しました。あなたと同じように我が子の頬にはほくろがあり、いつもあなたの顔と優しさを思い出させます。(2025. 3. 5)

With deepest gratitude,
Soni Gurung

【AAS会計報告】

1. 令和6年度AAS活動報告

令和 6 年 4 月 19 日～4 月 30 日 AAS ネパール調査旅行
 令和 6 年 7 月 4 日 AAS ニュース VOL. 58 発行 60 部
 令和 7 年 1 月 5 日 AAS ニュース VOL. 59 発行 60 部

2. 令和6年度会計報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

[費目]	決算(円)	摘要
[収入の部]		
繰り越し	10,496	
会費収入	58,000	29名複数年会費除く
寄付金	37,000	8名
基金勘定	300,000	基金残高¥950,000
利息	2,100	
計	407,596	
[支出の部]		
奨学金	283,289	直接送金
協力機関経費等	0	Komal foundation 分は7年度に計上
旅費交通費	18,673	
事務用品費	3,280	AASNEWS 印刷
送金手数料	15,000	Kyodai remittance
郵送費	19,810	2022年分含む
外注加工費	11,000	HP 管理費
令和7年度に繰越し	56,544	
計	407,596	

〈ルムジヤタルの小学校で〉

こどもたちは遠い道を歩いてくる。大雨のたびに形が変わる川沿いの道を、のどが乾いたら川の水を飲めるからいいや。田んぼや畑の草や切り株のあぜ道を昆虫や小動物と一緒に歩けるのもたのしいし。尾根や谷間の道は疲れるし、あまり道草はできないけど、でもときどき友だちと歌って踊って、そんなに遠い道ではなくなる。学校にはいつも優しくてあたたかちがいるから毎日行きたい。



い先生と、仲のいい友だちがいるから毎日行きたい。

【あとがき】

※田んぼの草取りやイノシシ・モグラ対策、そして強風で飛ばされた車庫の復旧を猛暑の合間に続けました。そのしわ寄せでNEWS発行が大幅に遅れて申し訳ありません。

※2024年の渡航はネパール人社員をリクルートする目的もあり、所属会社で旅費を負担してもらいました。また、同行者3名分の航空券は各自処理することにしました。名古屋空港民間駐車場が連休料金になり予算オーバーとなりましたが、参加者の朝倉氏のご厚意で寄付を頂きで賄うことができました。いずれも会計には入れていません。

※今年度から会費は任意納付に切り替えます。会費送金のための振替票は同封しておりません。振り替えるだけの方は下記の口座を郵便局窓口にてご利用ください。

AICHI-ASIA-SCHOLARSHIP

愛知・アジア・スカラーシップ

〒440-0862 豊橋市向山大池町 18-15 AAS

TEL 080-5293-3400(中沢) FAX 0532-53-3401

郵便振替口座 00830-6-18218 加入者名 AAS

E-mail aas@sala2.dti.ne.jp HP <http://www.kkan.net/aas/iweb>